

 評価のポイント

CL-Ⅰ. 看護実践能力：ニーズをとらえる力

〔15-1〕 こどもとアレルギー-2 患者教育とケアの実際

本講義のスライド（皮膚の断面図、気管支の断面図など）を使用して、

1. アトピー性皮膚炎のスキンケアと軟膏の塗り方のポイントを説明してください

1.病態として、アトピー素因によって皮膚のバリア機能が低下しやすいこと、見た目の症状が改善しても皮膚の炎症が持続していることを理解し、その炎症を治療する必要性を認識することが重要です。この病態を、患児と保護者にも分かりやすく説明できるまでを目指しましょう。

①薬物療法については、外用薬の使用量は両手のひらに相当する面積に 0.5g を目安とし、たっぷりと塗布する必要があります。塗り方のポイントは、すり込まず、皮膚に乗せるように塗ることです。

②スキンケアのポイントは、皮膚の炎症を悪化させるアレルゲンや汗などの刺激因子を洗い流すこと、そして保湿によりバリア機能を高めることです。この実技を患児と保護者に適切に説明できることが目標となります。

2. 喘息の非発作時の長期管理薬の必要性を説明してください

2.説明のポイントは以下の通りになる

①病態として、非発作時に気道の慢性炎症状態があること

②発作時の治療薬と非発作時に使用する長期管理薬の違い

③各吸入器具の正しい使用手技を身につけること（患児に処方されるステロイド吸入薬の吸入器具は、年齢により使い分ける必要がある）

以上を、デモンストレーション等で確認できれば良いでしょう。